

事業所における自己評価総括表（公表）

（児童発達支援）

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	西紋こども発達支援センター（児童発達支援）			
○保護者評価実施期間	令和7年10月20日 ~ 令和7年12月12日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	48	(回答者数)	22
○従業者評価実施期間	令和7年10月20日 ~ 令和7年12月12日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数)	8
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年2月1日			

○分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・専門職（言語聴覚士・作業療法士・保育士・公認心理師・社会福祉士・精神保健福祉士等）を配置しており、専門的な支援ができる。	・内部研修、外部研修の機会を積極的に設けて、日々、研究などが進んでいる支援方法やアセスメントに対応できるようにしている。また、実習の機会なども設けて、職員が他の機関で学んだことを取り入れている。 ・道立旭川子ども総合療育センターの地域療育支援等も活用することで、専門性の向上や欠けている専門職を担ってもらっている。	・現在行えている研修等は継続しつつ、新たなアセスメントや支援方法など、最新の情報を療育に取り入れていく。また、職場内の研修も充実させて、新たな職員の成長につながるよう整備していく。
2	・利用児1名に対し、必ず職員が1人以上担当することで、療育や保護者等からの相談に対応できるようにしている。 ・個人の特性に合わせた支援内容が実施できている。	・利用児童の状況によって、療育形態やグループメンバーなどを選定し、より効果的な療育につながるよう配慮している。また、専門的な支援が必要な場合は、担当職種も検討している。	・利用児童が増加傾向にあるが、担当職員制を継続し、現在の療育を継続して行えるよう取り組んでいく。
3	・療育体験会（わくわく広場）を開催することで、療育について知ってもらい、通所後の不安を軽減できるように取り組んでいる。そのため、療育に対する抵抗感が薄れ、必要な支援を受けられる方が増えている。	・体験する児童の状況や年齢なども加味し、療育体験会のメンバーを確定している。	・相談対応できる職員が増えることで、開催回数の増加や日程の調整がスムーズになる。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・職員数については、運営上の基準は満たしているが、利用児童の増加や地域の小学校や就学前施設等からの相談なども増えている。	・支援を必要としている児童が増加していることと、療育以外の業務も受けることで、幅広く支援の手が届くように対応しているため。	・療育に支障をきたさない範囲で、支援を必要としている児童になるべく対応できるように職員体制の見直しや、取り組める体制づくりを検討している。 ・道立旭川子ども総合療育センターからの地域療育支援等のさらなる充実を図れるとよい。
2	・利用児童増加に伴い、グループ編成が難しくなってきている。	・年齢や支援目標などを総合的に考えて、よりグループとしてのメリットが高まるように編成を行っているため、一日がかりで編成を行うことになってしまふ。	・療育の効果を最大限に発揮するためには必要な過程と考えているため、職員それぞれの意見を加味し、保護者等と相談して、編成を行っている。
3	・送迎などは行っていないが、仕事を行っている保護者も多いため、少なからずニーズはある。	・保護者も一緒に通所してもらい、療育を見つめらうなどを目的としている。保護者からの相談対応や日常の様子の共有がスムーズに行えると考えている。	・前述の理由により、保護者も一緒に通所して頂くなどのメリットを活かした運営を継続していきたい。

保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

（児童発達支援）

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		保護者等からの事業所評価の集計結果						
		公表日 令和8年2月1日						
		利用児童数 48 回収数 22						
		チェック項目	はい	どちらともいえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	22					
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	21	1				
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	21	1				
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	22					
適切な支援の提供	5	子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	19	2		1	損食についてプログラムもあるとさらに良い	損食プログラムについて、ご意見いただき、ありがとうございます。損食の問題は、お子さんの状況によって異なるため、まずはご相談いただけたと対応について検討できるかと思います。損食プログラムの専門家としては、言語聴覚士や作業療法士などがありますが、今後の研修受講なども視野に入れて検討していきます。
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	19	1		2		・支援プログラムにつきましては、当センターホームページにてご確認ください。
	7	子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	18	1		3		
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	19	1	1	1		
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	22					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	20	1		1		
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がありますか。	11	3	2	6		・保育所や認定こども園、幼稚園等との交流の機会は設けておりません。すでに通われている方が大半なのと、療育の1時間で交流の機会を作るのが難しいためです。ただ、保育士や幼稚園教諭の方の療育見学などは随時受け入れております。今年度は、療育体験会として、療育場面を実際に見ていただく機会も作っております。
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	21	1				
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	22					

保護者への説明等	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	9	6		7		・随時、親講座等の研修会の情報提供をさせていただいております。ご都合が合いましたら、ぜひ、参加していただけると嬉しいです。
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	21			1		
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	21	1				
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	21	1				
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	7	4	2	9		・肢体不自由児、情緒障害児の親の会があり、事務局として運営のお手伝いをしております。行事への参加などをお知らせし、参加していただき、新たに入会してくださる方も出ております。また、定期的にすてっぴらんらんでもお知らせしております。ホールには、ご紹介のプリントもご用意しておりますので、ご興味がある方は、お声掛けください。
	19 こどもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、こどもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	17	2		3		・相談等につきましては随時受け付けておりますので、お気軽にお声がけください。療育等で難しい場合は、電話相談や別日で日程を取ることも可能です。
	20 こどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	20	1		1		
	21 定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果をこどもや保護者に対して発信されていますか。	13	2		7		・毎月お配りしております“すてっぴらんらん”が定期通信に当たるものとなります。ホームページ等も随時更新しておりますので、ぜひご覧ください。
	22 個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	22					
	23 事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	10	3	1	8		・各種マニュアルについては、ホールの本棚に配置し、いつでも閲覧できる状態となっております。ただ、対面での説明と言う部分では実施できていない状況です。マニュアルについては、緊急対応マニュアル、感染症対策・衛生対策マニュアル、防火計画・火器取り締まり要項、虐待防止マニュアル・身体拘束適正化の指針、非常災対応マニュアル等と多岐に渡るため、閲覧で対応していますが、希望される方がおりましたら、説明させていただきますので、お気軽に職員までお申し付けください。 ・感染症対応の研修・訓練については、年2回開催しております。すてっぴらんらん等でお知らせしておりますので、ぜひご覧ください。
非常時等の対応	24 事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	7	4		11		・非常災害に向けた訓練につきましては、療育の中では行っておりませんが、職員のみで避難訓練を年2回、防災訓練(地震等)を年1回(本庁と合同開催)実施しております。
	25 事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	17	2		3		・安全計画を作成し、設備などの点検をはじめ、研修や講習の機会の確保、季節毎に安全面の周知等をおこなっております。また、今年度より不審者対応訓練も実施しております。

	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	10	3		9		・基本的には保護者にも療育に同席していただいておりますので、怪我等が発生した場合は、都度、説明等をさせて頂いております。 ・軽微な転倒や打撲などが発生した場合は、ヒヤリハット等を作成し、職員間で再発防止に向けて取り組んでおります。
満足度	27	こどもは安心感をもって通所していますか。	22				・子どもは本当にすてっぷの活動を楽しみにしており、通所を心待ちにしています。 ・楽しく通っています	
	28	こどもは通所を楽しみにしていますか。	22					
	29	事業所の支援に満足していますか。	22				・担当の先生はもとより、ほかの先生方からも朗らかに事細かに配慮や子どもへの声掛けをしていただいており、子どもの自信となっております。先生方、本当にありがとうございます。 ・担当の先生をはじめ、どなたも優しく声をかけてくださり支援してくれていると感じています。毎回の通所の他でも就学についてや、気になることも相談させてもらったりなど、助けてもらい感謝しています。	

事業所における自己評価結果（公表）

（児童発達支援）

事業所における自己評価結果						
事業所名		公表				
西紋こども発達支援センター（児童発達支援）		公表日 令和8年2月1日				
環境 ・ 体 制 整 備	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点		課題や改善すべき点
	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	8				
	2 利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	7	1			職員数は増えているが、利用者数の増加や事業拡大のためマンパワーでの対応にも限界がある。
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	8				
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	8				
	5 必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8				
業務 改 善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	8				
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8				
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8				
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	8		第三者委員については、ホールの掲示板に貼りだしている。		
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8				
適 切 な 支 援 の	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8		公表は当センターホームページ		
	12 個々の子どもに対してアセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	8				
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8				
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8				
	15 子どもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	8				
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8				
17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	8		・都度、月案を決める時間を設けている。また、週案を毎週作成している。			

提供	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8		・月案・週案にてそのグループの様子や個々の様子を考慮して活動内容を考えたりできている。	
	19	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	8			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8		・療育前には事前に打ち合わせ・確認をしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	8			
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8			
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	8			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	7	1	・情報共有はすべての利用者に対し密に行っているわけではないが、利用者の状況に合わせて担当者会議を別途開催したり、資料を作成し、情報共有・引継ぎを行っている。	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	8			
	28	(28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	6	2	・旭療支援や道立支援を受けている。	
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他の子どもと活動する機会があるか。	5	3		
	33	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8			
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8			
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8			

保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	8			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8			
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7	1	・対象者に対して案内を行ったり、お便りに掲載している。	
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8			
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		8		現在、対象の行事などは該当しない。
	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8		策定し、訓練などを行った際は、おたよりなどでお知らせしている。今年度より、不審者対応訓練も実施している。	
非常時等の対応	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8		避難訓練2回、防災訓練1回を毎年開催している。 感染症についても年2回の研修・訓練を実施している。 内容は各委員会で決めている。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	8			
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8		食事をする機会はないが、飴・チョコなどは確認している。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	8			
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	8			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8		定期的な研修会を実施している。内部研修のほか、他の市町村子ども発達支援センター等の情報交換なども行っている。	
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	8		身体拘束の指標に基づいて行っている。また、定期的に会議を開いている。現在、対象児童はいない。	